



リュブリャーナ大学留学体験

群馬大学短期留学プログラム



実施日：平成30年3月5日～平成30年3月16日
実施場所：リュブリャーナ大学(スロベニア・リュブリャーナ)

概要：2018年3月5日～2018年3月16日の2週間、群馬大学・筑波大学などを対象に企画されたスロベニアにあるリュブリャーナ大学での短期プログラム。

本学からは社会情報学部社会情報学科の学生1名と医学部保健学科の学生2名が参加した。

現地ではリュブリャーナ大学文学部アジア研究学科日本研究コースの学生と日本文化についての発表を行ったり、ともに授業を受けたりした。自由時間には市内散策を行った。

事前準備：日本文化についてのパワーポイント(以下、PPT)および原稿の作成。

参加費用：約30万円(うち7万円はJASSO奨学金、3万円は社会情報学部から支給された) **単位認定：**教養教育・総合科目1単位

1. 予備知識

スロベニア共和国はバルカン半島の付け根に位置しており、面積が20,251平方キロメートル(四国と同程度)、人口が約200万人(群馬県と同程度)、国民の約9割が南スラブ系のスロベニア人で構成されている。1991年に旧ユーゴスラビアから独立し、2004年にEU加盟。2007年1月1日からは通貨ユーロを導入している。

首都リュブリャーナにあるリュブリャーナ大学は、スロベニアでもっとも古く、もっとも大きい大学である。約63,000人の学生が在籍するこの大学は、世界で最も大きい大学のひとつであるとも言われる。

2. 私の志望経緯

2年前期の頃にハンガリー人留学生のチューターを担当して親しくなり、後期に入った頃からハンガリーへの留学をしてみたいと考えようになった。しかし、ハンガリーの交換留学期間は1年間であったため自身の学業・部活動の都合上断念せざるを得なかった。その後もGFLの先生方に相談に乗っていただきながらヨーロッパ方面で短期留学プログラムを探していたところ、スロベニア短期研修を紹介していただいた。最初はスロベニアという名前すら聞いたことのない国であったため参加を迷ったが、幸いにも隣国がハンガリーということでこのプログラムの前後に友人に会いに行くという計画も立て、参加することを決めた。



図1 授業風景



図2 授業風景

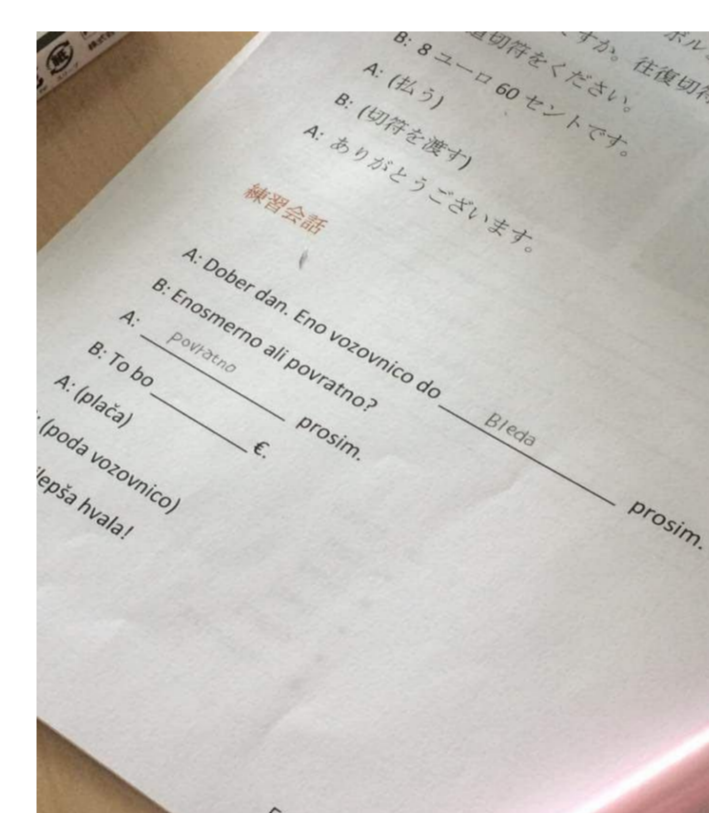


図3 授業資料

3. 授業内容

主に5つの授業を受けた。

- ・発表...概要に記載したPPTの発表。日本の学生が日本語で発表し、現地学生がスロベニア語に通訳する。発表時間は1人10分程度。その後、質疑応答。
- ・スロベニア語...単語や基本的な挨拶、日常会話を計7回に渡って教わった。
- ・スロベニア概論...現地学生によるスロベニアに関するPPT発表。
- ・日本語1・2...現地学生の日本語のクラスに参加する。
- ・wiki執筆...スロベニアに関するWikipediaのページの一部を編集する。



図4 授業風景



図5 授業風景

4. 様々な交流イベント

2週間という短期間でたくさんの参加学生と交流できたのは豊富なイベントがあったからだ。特に印象深かった2つのイベントを紹介する。

・歓迎会...初日の授業後、現地学生が企画してくれた。ゲームをしたりお菓子を食ったりしながら本プログラム参加者が顔合わせをした。この歓迎会をきっかけに次の日から現地学生も日本の学生も関係なく挨拶を交わし、自由時間には一緒に行動するようになった。

・文化の日...日本の学生が現地学生に書道・折り紙・福笑いなどを用意し、一緒に体験する。授業の一環であったが先生も一緒に体験をしてくれた。日本文化を通して全員が気楽にコミュニケーションをとることができた。



図6 文化の日

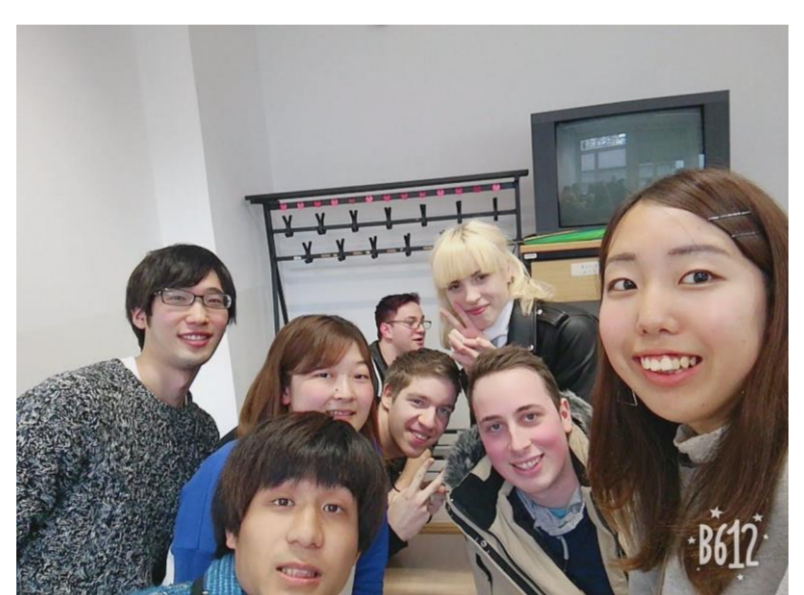


図7 集合写真



図8 町の象徴=ドラゴン



図9 文化の日



図10 集合写真

5. スロベニア短期研修の特徴

自身の体験に基づく見解として、本プログラムにおける3つの特徴をあげる。

① 日本語学科だからこそその安心感

本プログラムはリュブリャーナ大学文学部アジア研究学科日本研究コースの学生との交流であったため、日本語でのコミュニケーションが可能であった。なので、街中で分からないこと・困ったことがあっても現地学生に聞いたら日本語で説明してもらえるという安心感は心強かった。

② 少人数だからこそその自立心の向上

参加人数が少人数ということもあり、基本的に学生主体でホテルの予約や空港からホテルまでの交通手段の手配を行った。また現地では先生の同行もないため、問題が発生しても自分たちで解決しなければならない。それゆえ自分の行動に責任を持つという自立心が向上した。

③ 短期研修だからこそその充実感

スロベニアに来てからは毎日があつという間でありながらも濃密な2週間を過ごせた。これは限られた時間の中でいかにスロベニアという国を知ることができるのかと、自身の好奇心を奮い立たせられた結果であるように思う。ここでの2週間からは普段日本にいただけでは味わえない充実感を得ることができた。

I love Slovenia !!!

6. まとめ

『強くなったね。』——帰国後、本プログラムの報告をさせていただいたときに先生方から言われた言葉が忘れられない。出発前は初の留学ということから全てのことが不安であった。留学だけに限らず、誰でも新しいことをするときには不安が伴うと思う。しかし、今回のプログラムを終えて私が声を大にして言いたいことは、不安を解消する一番の方法は自分で体験してみること、だ。

さらに私は“学生”という立場であるうちにやりたいことには手をつけてみるべきだ、ということも主張したい。

そもそも私は“英会話は苦手”という不安がありながらも“外国人の友人を作りたい”ということから留学生チューターを始め、その人のおかげで留学を志望し、先生方にたくさん相談に乗ってもらいながらスロベニアへの留学が決まり、たくさんの外国人の友人ができた。

これは自身が“学生”という立場であるからこそ、先生方や大学自体から協力してもらえたことであり、なし得たことである。

本当に私は本プログラムに参加してよかったと心から思うし、私のような“学生”にはぜひ参加してほしい。

最後に、スロベニア短期研修に携わって下さった皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。